



卒業・進級を控えて

とうとう3月となり、卒業式は目の前です。お別れを控えているのは、卒業生だけではなく、在校生もまた「進級」することから、現クラスの仲間と過ごすのもあとわずかです。

少し前、ある1年生の子供に尋ねられました。「校長先生、わたし、2年生になれるかな・・・」って。突然の質問に、「もちろん！」と即答したわけですが、とても気になっていました。1週間後またその子と出会ったとき、「校長先生、わたしね、時間内に給食、食べれたが！」と満面の笑みで伝えてくれました。私は、はっとしました。「その子なりに、進級するためのハードル（目標）をちゃんと描いていて、例えばそれが『給食』だったとしたら、なんとか進級前に叶えたい。『大丈夫か心配、でも頑張ろう』と葛藤しながら、日々努力していたにちがいない」と思ったのです。その子がとても愛おしく、再度「絶対、2年生になれるよ」と声をかけていました。

進級することは一見当たり前のようですが、子供によっては、不安も感じていることもあるかもしれません。是非、よいところ、がんばったところ等、精一杯見付け、声かけをしていこうと職員で周知いたしました。

大門の子は皆とてもよい子です。自信をもって進級できるよう願っています。

「字は体を表す」 県書初め大会に参加した児童の作品

2月下旬に行われた県書初め大会に参加した児童の作品が、昨日まで掲示してありました。眺めるたびに、気持ちがのびやかになります。見るたびに新たな発見があります。

子供たちの学期ごとの目当てに、「字をきれいに書きたい」といったものがあります。



とてもよい目当てですね。なぜなら、「字は体を表す」や「書は心画なり」という諺があるように、ただ字がうまい下手ということではなく、文字を書いているときの精神状態がとても落ち着いていることを表すからです。脳も活性化して身に付くことも多いでしょう。

無心に何かに集中できる、時間を忘れて没頭できることがあるのは、素晴らしいことです。子供たちからは「ゲームならあるよ」という声が聞こえてきそうですが、それ以外でも、何かしら好きなことはあるはずです。一方大人は、忙しさからか、何かに集中できることを忘れていたような気もいたします。

卒業おめでとう集会

3月7日（火）、「卒業おめでとう集会」が行われました。5年生が中心となって企画運営された集会です。今まで支えてくれた6年生への感謝の気持ちを伝えようと、おめでとう感あふれる環境、各学年の出し物やプレゼントと、たいへん盛り上がりました。

一同に会しての集会在ようやくできるようになったのかと、感慨深く思うと同時に、このような機会を通じて、子供たちの一年の成長を実感することができました。特に、五年生の活躍ぶりは目を見張るものがあり、来年の最高学年として大いに期待がもてました。



3年生 サケの稚魚の放流

3月8日（水）、3年生が発眼卵から孵化をさせ、およそ3か月間育ててきたサケの稚魚を庄川に放流しました。まず子供たちは、3cm程のサケの稚魚が入ったペットボトルの水槽を大事そうに持ちながら庄川に移動しました。

河川では、「大きくなってね。バイバイ～」 「また戻っておいでね～」などと、稚魚に声をかけながら放流し、泳いでいく稚魚を少し寂しそうに見つめていました。

4年後には、子供たちが放流した稚魚は、庄川に大きくなって戻ってくるそうです。このような体験があることで、いのちの大切さやふるさとの自然の豊かさを実感し、子供たちの心が育まれていくのでしょう。

